

学校名：おけとちゅうりつおけとちゅうがっこう 置戸町立置戸中学校
 校長名： 幸谷 勝一
 所在地： 北海道常呂郡置戸町字拓殖47-1
 電話番号： 0157-52-3100

I 研究実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

置戸町は、北海道オホーツク管内にあり、大雪山の東端に接し、周囲を山に囲まれた常呂川最上流に位置する町である。人口は約3500人で、豊かな森林が広がり「人間ばん馬」や「オケクラフト」で全国的にも有名な町である。

本校は、昭和22年に開校し、昭和52年に置戸中・勝山中・境野中・秋田中の4校が統合され、今年で33年目を迎えている。

教育活動については、多くの地域住民の協力により、魅力ある活動を展開できる風土がある。

特に、「和楽器学習」「スキー学習」「職場体験学習」「福祉学習」などでは、地域の方々に指導者として授業のサポートをいただいている。生徒は大変素直で誠実さが溢れており、特に、挨拶が良く、地域の方々から高く評価されている。一方、「困難を粘り強く乗り越えていく力」や「相手を思いやり、折り合いを付ける力」を伸ばしていくことが求められている。

2 学校の概要（平成22年5月1日現在）

	1年	2年	3年	特別支援級	計	
学級数	1	1	1	2	5	
生徒数	男	16	12	11	1	40
	女	13	12	22	1	48

教員数11名（保健体育科1名）

体育授業の状況

実施領域	実施学年				外部指導者数
		男	女	計	
武道（柔道）	1	16	13	29	2
武道（柔道）	2	13	13	26	2

II 授業事例及び今後の展望等

【本事業の成果の要点】

- 取組の方法とその結果から明らかになったこと
- ・北海道教育委員会が作成した「柔道における単元計画例」を基に、生徒の実態に即した単元計画がスムーズに作成でき見通しをもって授業ができた。
 - ・外部指導者とTT（ティームティーチング）で行った柔道の授業により、「技の指導ポイント」が明確になり、適確な助言を与えることができた。
- 本事業による生徒や教師の変容
- ・外部指導者による技の示範やきめ細かな指導は生徒の学習意欲を高めるとともに、技能の上達を実感させることができた。
 - ・外部指導者の協力を得て、体育担当教員の実技研修を実施するとともに、技の指導ポイントについて理解を深め、自信をもって指導することができた。

1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

- ① 新学習指導要領に対応した「柔道の単元計画」の在り方にかかわる実践研究
- ② 外部指導者を活用した効果的な柔道の指導の在り方

(2) 研究テーマ設定のねらい

新学習指導要領の武道必修化に伴い、本校では、平成21年度に柔道用畳（80畳）、柔道衣の購入及び畳固定枠の設置などの準備を進めてきた。指導面では、体育担当教員が柔道の指導経験に乏しく、「単元の指導計画の作成」や「技の具体的な指導」において、きめ細かく工夫・改善を図っていく必要があったことから、次のとおり研究テーマを設定した。

- ① 道教委が平成21年3月に作成した「柔道における単元計画例」を基に授業を展開し、検証を行う。特に、初めて柔道を学習する生徒がほとんどである実態から、「柔道の特性に触れ、基礎的・基本的な知識や技能をしっかりと身

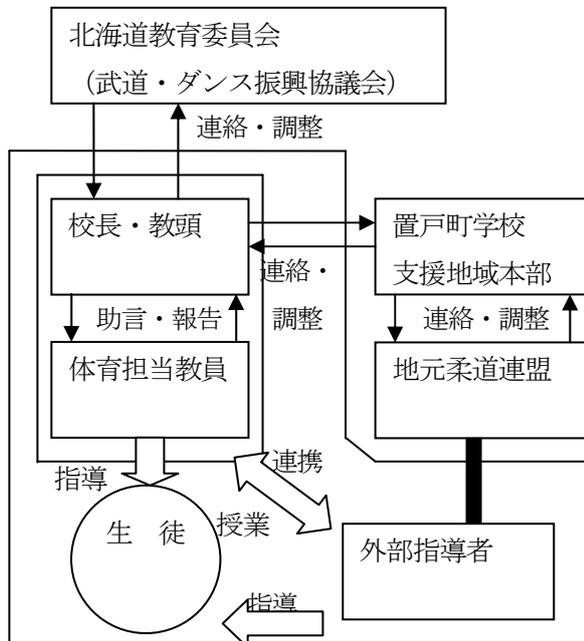
に付けさせる学習内容」や「“痛み”や“つらさ”を緩和するとともに、自他の安全に留意し、相手と楽しく学ぶことができる授業」ができるよう単元計画を工夫・改善する。

② 体育担当教員と外部指導者（地元の柔道連盟の指導者）とのTTにおいて、技のポイント指導やきめ細かな指導を行うことで、生徒の学習意欲を高めるとともに、技能の習熟を図る。また、外部指導者の協力を得て、理論及び実技の研修を実施し、体育担当教員の指導力向上を図る。



外部指導者の紹介

(3) 取組体制



(4) 本事業における主な取組

○ 6月	・校長と体育担当教員の協議（研究構想）
○ 7月	

平成22年度

- ・置戸町学校支援地域本部との連携
- ・地元の柔道連盟へ外部指導者派遣の依頼
- ・第1回武道・ダンス振興協議会において、「武道指導や安全管理」について協議
- 8月
 - ・校長、体育担当教員と外部指導者で、本研究の概要及び柔道の授業における支援の在り方について協議
- 9月
 - ・校長と体育担当教員の研究協議
 - ・本校の単元計画の作成
 - ・「柔道ざらいをつくらない授業」や「分かる・できる授業」の単元計画の工夫・改善
 - ・学習ノートや掲示資料の作成の準備
 - ・校長、体育担当教員と外部指導者による授業の進め方についての打合せ
- 10月～11月
 - ・技の指導ポイントについて、体育担当教員対象の実技研修（外部指導者）
- 11月～12月
 - ・単元計画に沿って、外部指導者とTTで1・2学年の柔道の授業実践
 - ・生徒の授業の様子を把握しながら、校長と体育担当教員の協議及び外部指導者との打合せや協議
 - ・格技場に掲示する資料の作成
 - ・柔道ざらいをつくらない授業の工夫
 - ・学習ノートの活用
 - ・生徒の授業感想
- 12月
 - ・本年度の本事業における「成果と課題」についての協議、単元計画の改善
- 1月
 - ・研究のまとめ
 - ・第2回武道・ダンス振興協議会
 - ・本研究の報告及び研究成果の普及
 - ・関係中学校へ、本校が作成した「柔道の単元計画」等の情報提供

2 活動及び授業事例

(1) 武道（柔道）

① 目的

初めて柔道の指導を行う体育担当教員が、外部指導者との連携を図り、初めて柔道を学習する生徒に、柔道の楽しさを味わわせる「単元計画の在り方」や「効果的な指導法に関する実践研究」について研修する。

② 具体的な指導方法

ア 外部指導者とのTTによる指導

- 授業における体育担当教員と外部指導者の役割分担の打合せを事前に行い、授業を行う。



外部指導者による技の示範

- 外部指導者との事前打合せにおいて、効果的に技を習得させるための「技ができるためのポイント」について焦点化を図る。
- 生徒が学習する技のイメージを膨らませ、意欲的に学習させるために、技に熟練した外部指導者による技の示範の場面を多く取り入れる。また、技がうまくできない原因についても、合わせて実演するよう工夫する。
- 効果的に技を習得できるよう、体育担当教員と2名の外部指導者で巡回し、練習する個々の生徒に対し、きめ細かな「技のアドバイス」を意図的に行うようにする。
- けが防止を図るために、外部指導者と事前に協議を行い「けがをしやすい学習場面」について明らかにして授業を展開

する。また、体育担当教員と外部指導者から、それぞれの学習場面において適宜、けが防止についての指導の徹底を図る。

- 体育担当教員の柔道における指導力の向上を図るために、外部指導者の協力を得て、実技研修を実施する。
 - 「単元計画や授業案」の改善のために、校長と授業後の研究協議を行う。
- #### イ 授業の工夫・改善
- 道教委作成の「柔道における単元計画例」を基に、本校生徒の実態を踏まえ、「学習内容と学習する順序」「練習回数」などの見直しを図り、本校の単元計画を作成する。
 - 単元計画の中に、学習における具体的評価規準・評価方法を示した「指導と評価の計画」を明確に位置付ける。
 - 柔道に対する怖さを取り除くために、危険な技や禁じ技をかけたり、安全の配慮に欠けた行為をしたりしないよう約束事を徹底させる。また、相手を尊重するとともに礼儀を重んじ、相手にけがをさせない配慮ができるよう指導の徹底を図る。
 - 柔道ぎらいにつながる“痛み”の緩和を図るため、約束練習など繰り返し投げ込む場合には、受け身マットや器械運動用マット等を活用し、痛みを和らげるよう場づくりの工夫をする。また、室温が特に低い場合には、衣服の着用等の防寒の工夫を行う。
 - 効果的に投げ技を習得させるために、「崩し」や「体さばき」について、生徒に意識させ練習に取り組みさせる
 - 投げ技の習得のために、「かかり練習（打ち込み）」をしっかりとできるように時間を確保する。
 - グループ学習において、「見取り稽古」や「グループ討議」を行い、互いの「技の向上」について思考・判断・表現する場

や機会をつくる。

- 基本事項をしっかり理解させるとともに、以前に学習した事項がいつでも確認することができるように、「基本事項の資料」を武道場の壁に掲示するなど“場



資料を掲示した“場づくり”

- 「学習ノート」を活用し、柔道の授業 12 時間の授業の見通しやねらいを明確に理解させるとともに、授業での「気付き」や「感想」を記録させ、技の習得の状況について振り返らせる。
 - 男女の特性に基づく心理的な配慮の工夫として、投げ技、固め技（抑え技）の練習のときは、男女別のグループで組ませる。
 - 畳がずれ、その隙間に指が挟まって発生するけがを防止するために、畳を固定する木枠を設置し安全を確保する。
 - 畳の清掃を行い、畳の上のほこりや虫などで抵抗感をもたないように、衛生面の配慮に努める。
- ウ 指導に生かす関係機関との連携
- 学習指導要領改訂に伴い、「町教育委員会との連携」により、平成 21 年度に、畳 80 枚と畳固定用の木枠を武道場に設置する。また、柔道衣については、各学年分を町教育委員会で購入し、柔道の授業期間中、各生徒に貸し出し、柔道の授業の期間終了後に、各家庭で洗濯し、学校に返却させるようにする。

- 「置戸町学校支援地域本部」を通じて、地元の柔道連盟と連携を図り、外部指導者を確保する。
- 「武道・ダンス振興協議会との連携」により、「武道にかかわる安全管理」について助言を受ける。

③ 成果と課題

ア 体育担当教員の成果と課題

《成果》

- 新学習指導要領に対する理解が深まり、単元計画や指導法の工夫・改善の重要性を実感するとともに、他の領域における単元計画や指導法の改善にも取り組むようになった。
- 外部指導者による「専門的な指導助言」を受け、「技の指導ポイント」が明確になり、指導の改善をはじめとする「指導力の向上」が図られた。
- 単元計画における「評価規準の計画」を見直したことで、一層「指導と評価の一体化」を意識するようになり、授業のねらいをより明確にして、授業を展開するようになった。

《課題》

- 柔道は、中学校で初めて学習することから、柔道ぎらいをつくらないように、生徒の取組状況を見極めながら、3年間を見通した段階的な単元計画の改善を適宜行い、一層「柔道の楽しさを味わわせる効果的な指導法」を研究していく必要がある。
- 各種研修を通し、体育担当教員の技の示範力を高めていく必要がある。

イ 生徒の成果と課題

《成果》

- 単元計画を見直すことで、技の難易度に応じた段階的な学習を展開することができ、柔道に対する抵抗感を緩和し、積極的に授業に取り組んでいた。
- 外部指導者の「技の示範」や「きめ

細かな指導」により、生徒の学習意欲が高まるとともに、技の上達が見られた。

- グループ学習や見取り稽古などを取り入れることで、生徒同士で考えたり教え合ったりしながら、積極的に課題に取り組んでいた。
- 相手への尊重や安全確保における約束事の徹底をはじめ、受け身マットの活用や低室温時の防寒の工夫などは、「恐怖心の排除」や「痛みやつらさの緩和」につながり、初めて柔道を学習する生徒にとって有効であった。



外部指導者による個別指導

《課題》

- 投げ技をうまくかけることができない生徒に対し、どこでつまづくことが多いのかを検証し、それに対するきめ細かい指導が必要である。
- 学習ノートやアンケートにおいて、授業の中で「理解がしづらかった点」や「痛みやつらさがあった点」などを把握し、授業改善につなげていく。



学習ノートを配る体育担当教員

【生徒の声】～学習ノートより～

- ・柔道は、痛くて怖いと思っていたけど、だんだんと恐怖心がなくなり、授業がとても楽しくなり好きになった。
- ・外部指導者の技のかけ方についての説明が、とても分かりやすく、技のイメージをしっかりと持ち、練習することができた。
- ・外部指導者が、個別に優しく技のポイントを教えてくれたので、できない技をかけることができるようになり嬉しかった。
- ・友達と教え合ったり、協力してできたりしたので楽しかった。
- ・授業を通して、柔道は相手にけがをさせないように思いやる心や尊重する気持ちが大事であることを学んだ。

3 今後の展望

本事業で実践した授業を含め、「柔道の単元計画」を継続的に工夫・改善しながら、一層生徒が楽しく積極的に柔道の授業に取り組める「魅力ある授業づくり」に努めるとともに、新学習指導要領のねらいを踏まえるとともに、武道指導の充実のみならず、他の運動領域においても、「単元計画の見直し」を含め、地域の指導者との連携を強め、魅力ある授業づくりや改善に積極的に取り組んでいく。

また、本事業で作成した「柔道の単元計画」を、オホーツク管内の柔道の授業に取り組む中学校に提供し普及を図る。

資料 第1学年の単元計画 ～12時間単元の展開～

- ・教師主導で基礎・基本を身に付けながら、生徒が考え、協力して活動する場面も設定する。
- ・生徒が技の練習法などの学び方を身に付け、計画的に学習できる基礎をつくる。

区分	はじめ	なか①					なか②					まとめ
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
0分		本時のねらい					準備運動					
授 業 の 展 開	<p>●オリエンテーション</p> <p>柔道の歴史や特性、授業で行う意義を説明し、学習への導入とする（ビデオ等を活用し、柔道のイメージづくりや動機付けを行う等の工夫もある）</p> <p>◇基本知識</p> <p>歴史、特性、礼法、柔道衣の扱い方</p> <p>◇体ほぐしの運動</p>	<p>基本動作</p> <p>◇投げ技の基本動作</p> <p>姿勢、組み方、進退動作、崩し、体さばき</p> <p>受け身（転び方）</p> <p>◇固め技（抑え技）の基本動作</p> <p>姿勢、攻撃、防御、攻め方、返し方</p>					<p>体ほぐしの運動</p>					<p>・単元の成果の確認</p>
		<p>基本となる技</p> <p>◇基本動作と投げ技の関連</p> <p>◇基本となる技</p> <p>【投げ技】</p> <p>出足払い、膝車、大腰、大外刈り、体落とし</p> <p>※安全性及び受け身、体さばきの関連から、投げ技では、この5つの技を基本の技として取り扱う。</p> <p>第2学年では</p> <p>+ 支え釣り込み足</p> <p>小内刈り</p> <p>【固め技（抑え技）】</p> <p>けさ固め、横四方固め</p> <p>第2学年では</p> <p>+ 上四方固め</p>					<p>◇技の練習法</p> <p>かかり練習（打ち込み）</p> <p>約束練習</p> <p>自由練習（乱取り）</p>					
開	整理運動	教師による評価					次時の確認					<p>・次の単元に向けた課題の明確化</p>
							<p>簡易な試合</p> <p>◇簡易な試合の仕方</p> <p>固め技（抑え技）の試合、投げ技の試合</p> <p>※使う技を制限したり、時間を短くしたりするなど、ルールを工夫することで、安全に、楽しみながら実践的な動きを経験させる。</p>					
50分							(生徒による自己評価)					